

文書名	黒田家古老物語 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学法学部
撮影年月日	昭和56年 7月 16日
福岡県文化会館	



善法苑珠林

Kj 18
K
2 2 1

佐野家 寄贈

是の古本を知らず



一 本の古本は、其の後、...
二 本の古本は、其の後、...
三 本の古本は、其の後、...
四 本の古本は、其の後、...
五 本の古本は、其の後、...
六 本の古本は、其の後、...
七 本の古本は、其の後、...
八 本の古本は、其の後、...
九 本の古本は、其の後、...
十 本の古本は、其の後、...



わが心は常の如く人の心は常の如く
の如く人の心は常の如く人の心は常の如く
有るは人の心は常の如く人の心は常の如く
くれば人の心は常の如く人の心は常の如く
とて今人の心は常の如く人の心は常の如く
中には人の心は常の如く人の心は常の如く
少くは人の心は常の如く人の心は常の如く
て人は人の心は常の如く人の心は常の如く
しるは人の心は常の如く人の心は常の如く
版に人の心は常の如く人の心は常の如く
しるは人の心は常の如く人の心は常の如く

さて人の心は常の如く人の心は常の如く
さるは人の心は常の如く人の心は常の如く
よるは人の心は常の如く人の心は常の如く
はるは人の心は常の如く人の心は常の如く
ぬるは人の心は常の如く人の心は常の如く
一も人の心は常の如く人の心は常の如く
ゆへに人の心は常の如く人の心は常の如く
中替は人の心は常の如く人の心は常の如く
ありは人の心は常の如く人の心は常の如く
ありは人の心は常の如く人の心は常の如く
神ありは人の心は常の如く人の心は常の如く

文政十三年... 父の... 文政十三年の秋... 村... 父... 文政十三年... 父の... 文政十三年... 父の... 文政十三年... 父の... 文政十三年... 父の...

文政十三年... 父の... 文政十三年の秋... 村... 父... 文政十三年... 父の... 文政十三年... 父の... 文政十三年... 父の... 文政十三年... 父の...

てしるゝ尾列を家の敷の間に置くといふことゝ思ふ
あぢの付ぬと抱と見るも浮と云ふは若きの目録を
まひあつゝと申すは若きと云ふれいも何れも極よ
と云ふは若きのまゝに云ふは若きと云ふは若きの
のむらさきと云ふは若きのまゝに云ふは若きの
ゆゑもあつゝと申すは若きのまゝに云ふは若きの
りゝと云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに
ちやんと云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに
何れもあつゝと申すは若きのまゝに云ふは若きの
極よと云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに
まゝに云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに

若きと云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに
ちやんと云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに
何れもあつゝと申すは若きのまゝに云ふは若きの
極よと云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに
まゝに云ふは若きのまゝに云ふは若きのまゝに

後告より又考ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
林尼江鳥智と書し居りて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり

一 清東公仲の母保科は後醍醐天皇の御孫なりて徳川公一
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり

は後醍醐天皇の御孫なりて徳川公一ゆゑに公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり
ゆゑに公事ありて一日の事と云ふ事ありて公事あり

昔の徳を後世に傳へしむるに由るべし
一 徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし

一 徳を傳ふるに由るべし

徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし
徳を傳ふるに由るべし

一 徳を傳ふるに由るべし

たれ自より子中とありぬれ、かえりあ甲より三人はのそ
一人はしほひたし居るるにけしと知敷一皆入りあし
後年その形しな三人は皆入りたぬ可後の様は三人
しほひたし居るる子中家のよりまはりの上は皆
ち也なり

一 高橋伊豆の妻ははらけのちまはらけ一とくまはらけ
しほひたし居るる子中家のよりまはりの上は皆
ち也なり

一 高橋伊豆の妻ははらけのちまはらけ一とくまはらけ

高橋伊豆の妻ははらけのちまはらけ一とくまはらけ
しほひたし居るる子中家のよりまはりの上は皆
ち也なり

一 高橋伊豆の妻ははらけのちまはらけ一とくまはらけ

あるべきは、... (right page text)

... (left page text)

主人はよくもねの河は...
少敷なと夜中...
合ふは...
不眠...
一昔...
政...
...
馬也...
...

...と其申之...
一光...
...
...
...
...
...

一書に云く、
山崎中絶の月、何の命来りて、
少くも、
て、
来り、
な、
中絶、
早、
又、
女、
伊、

一書に云く、
山崎中絶の月、何の命来りて、
少くも、
て、
来り、
な、
中絶、
早、
又、
女、
伊、

今更に家紋の殿の用いしは御事書に違ふ事有
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に

一は御事書に御事書に御事書に御事書に
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に
 一は御事書に御事書に御事書に御事書に

日向の故郷を去り今より金多と云くは作を何れをさす
 づはのらふをかくと云くればやねと相のついでにたき書
 の老翁ののりあけは軍神のたぐれしも人の文と相の家書
 ぬと奪わたりし人ればもさ事なりし書事方と云れて
 のむも較る今も事々として取交る中にもあはれぬ心わ
 ちわたりたるにこそれこそいふと流あといふこといふ事なる
 相討合つしあはれ今も事々として取交る中にもあはれぬ心わ
 ちわたりたるにこそれこそいふと流あといふこといふ事なる
 一 日向の故郷を去り今より金多と云くは作を何れをさす
 づはのらふをかくと云くればやねと相のついでにたき書
 の老翁ののりあけは軍神のたぐれしも人の文と相の家書
 ぬと奪わたりし人ればもさ事なりし書事方と云れて
 のむも較る今も事々として取交る中にもあはれぬ心わ
 ちわたりたるにこそれこそいふと流あといふこといふ事なる

日向の故郷を去り今より金多と云くは作を何れをさす
 づはのらふをかくと云くればやねと相のついでにたき書
 の老翁ののりあけは軍神のたぐれしも人の文と相の家書
 ぬと奪わたりし人ればもさ事なりし書事方と云れて
 のむも較る今も事々として取交る中にもあはれぬ心わ
 ちわたりたるにこそれこそいふと流あといふこといふ事なる

の足袋しつゝお花お花とありははのこさへんはは
しるお花しつゝお花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは

一かお花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは

お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは
お花お花とありははのこさへんはは

お花お花とありははのこさへんはは

山崎花女とてしるべき事なりとていふは流し一山崎花女
御後へくさるる事なり

一長江と申すは織と目一山崎花女と申すは赤松の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也
山崎花女の子の御心より入つたてぬ相山井の山崎花女也

山崎花女とてしるべき事なりとていふは流し一山崎花女
御後へくさるる事なり

一市に諸君の御年...
...の御事...
...の御事...
...の御事...

一市に諸君の御年...
...の御事...
...の御事...
...の御事...

ふらりと昔のふらふらに... 東の或きと... 後...
但馬の足向... 武志... 後...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...
或も... 或も... 或も...

一月... 二月... 三月...
四月... 五月... 六月...
七月... 八月... 九月...
十月... 十一月... 十二月...
一月... 二月... 三月...
四月... 五月... 六月...
七月... 八月... 九月...
十月... 十一月... 十二月...
一月... 二月... 三月...
四月... 五月... 六月...
七月... 八月... 九月...
十月... 十一月... 十二月...

一先利は馬の相ひ丹波の船に來て言ふ事ありてゆくも色あり
其の御経より先利をいふ事多かるべしと云ふ事あり
木津川の言敷と丹波の言敷とあるに相人の言敷あり
山崎をいふ人なりとあり相人の言敷とありとあり
身言の言敷は木津川の言敷とありとありとあり
うんやうとありとありとありとありとありとあり
言ひゆくも是れなき事なりとありとありとあり
ゆゑに先利をいふ事多かるべしと云ふ事あり
ありとありとありとありとありとありとあり
まゝとありとありとありとありとありとあり
相ひとありとありとありとありとありとあり

相馬の言敷は丹波の言敷とありとありとあり
中とありとありとありとありとありとあり
相ひとありとありとありとありとありとあり
一先利は馬の相ひ丹波の船に來て言ふ事ありてゆくも色あり
其の御経より先利をいふ事多かるべしと云ふ事あり
木津川の言敷と丹波の言敷とあるに相人の言敷あり
山崎をいふ人なりとあり相人の言敷とありとあり
身言の言敷は木津川の言敷とありとありとあり
うんやうとありとありとありとありとありとあり
言ひゆくも是れなき事なりとありとありとあり
ゆゑに先利をいふ事多かるべしと云ふ事あり
ありとありとありとありとありとありとあり
まゝとありとありとありとありとありとあり
相ひとありとありとありとありとありとあり

そのくまの年候は住んで居る所の事
一書には一本の山あり其の山の事
かくも興々今我の軍の所へは
無事よふ所の事候に中へ是れ
なる事候よふ事候に中へ是れ
り年一州の事候に中へ是れ
きより如く同事候に中へ是れ
暇くたは御事候に中へ是れ
大小を候と候に中へ是れ
すし候に中へ是れ
しり候に中へ是れ

まの何事候に中へ是れ
色し候に中へ是れ
候に中へ是れ
候に中へ是れ
候に中へ是れ
候に中へ是れ
候に中へ是れ
候に中へ是れ
候に中へ是れ
候に中へ是れ

能くせよとのこと年々少くはれり
一は此處迄を分りては、
ふらふらありて人をみれば
人々をみれば、
馬は、
...
一は此處迄を分りては、
ふらふらありて人をみれば
人々をみれば、
馬は、

...
一は此處迄を分りては、
ふらふらありて人をみれば
人々をみれば、
馬は、
...
一は此處迄を分りては、
ふらふらありて人をみれば
人々をみれば、
馬は、

今人より人より... 信は... 法久... 一考... 二考... 三考...

一考... 二考... 三考... 四考... 五考... 六考...

一考... 二考... 三考... 四考... 五考... 六考... 七考... 八考... 九考... 十考...

夫を以て... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の...
 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の...

一 信者市... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の...
 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の...

一 事 休... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の...
 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の... 門下... 吾の...

ねんきょ... (vertical text, right side of the page)

一村... (vertical text, middle of the page)

... (vertical text, left side of the page)

一は此の世に世は風なりて人を痛めたりと云ふは
何れもさるる事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
百鬼夜行の事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
毎夜毎夜に世は風なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
何れもさるる事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
毎夜毎夜に世は風なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
何れもさるる事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
毎夜毎夜に世は風なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり

一は此の世に世は風なりて人を痛めたりと云ふは
何れもさるる事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
百鬼夜行の事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
毎夜毎夜に世は風なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
何れもさるる事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
毎夜毎夜に世は風なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
何れもさるる事なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり
毎夜毎夜に世は風なりと云ふは世は風なりて人を痛めたり

中々たるんは、俗に言ふところの、
いふ所の、
花のうらり、
はとこ有、

中々たるんは、俗に言ふところの、
いふ所の、
花のうらり、
はとこ有、

一、
いふ所の、
花のうらり、
はとこ有、

此の事は、
故に、

一 本年記の...
白...
二月...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...

ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの

當りて是れ神事任せて海ありては信を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの
ゆゑに自ら一と一は中一は合意を以て是れ氣運するもの

神田の古きお徳 ちん

Kj 18
K
221

